みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　4月　15日　　NO.3

フィボナッチ数列

　大人の課題、いかがだったでしょうか。

　数学で言う「数列」の分野のお話でした。

課題でした「1,2、3、5、8、13、21、34、‥‥」という数字の並びをフィボナッチ数列といいます。

簡単に説明しますと、ひとつ前ともう一つ前の数字を足すと、その数字で出てきます。

1＋2=3、2＋3=5、13＋21=34という具合です。

高校の数学を勉強すると、一般化といいまして、100個目の数字が何であるか、一発で計算できたりします。

ところで、この数列には、神秘的なお話があります。

例えば、ネズミを繁殖させようとします。

2匹のネズミからどんな具合に子孫が増えていくか。何回も調査をしてデータを平均しますと、その割合は、「2、3、5、8、13‥」の増え方に近くなるとか。

台風の航空写真がよく天気予報などで示されますが、その台風の目を中心にして、その円周の広がり具合を調べると、その数字も「2、3、5、8、13‥」の近い数字になるとか。

ひまわりの種も実は、真ん中に一つあって、その上に2個その下に三個、その周りに五個‥という出来方をしているとか。

生物学や天文学とも不思議なつながりのあるフィボナッチ数列。たくさんの研究者がいろんな論文を発表しているとききました。

「なんで勉強せなあかんねん」と時々聞きますが、本来、勉強は、すればするほど勉強したくなるものなのかもしれません。